

事業報告書

1 支援団体名	本明川を語る会
2 事業名称	第9回諫早大水害を語り継ぐ～7月25日を忘れない～
3 実施日時	平成29年7月23日（日） 13:00～16:50
4 実施場所	諫早市文化会館
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>本年は昭和32年7月の諫早大水害から60年を迎える。本明川流域減災協議会(国土交通省・長崎県・諫早市・長崎地方气象台)が主催し、市民を中心に防災への決意を創出させるため「本明川防災・減災フォーラム」を開催することになった。主催者の要請により本会は後援することになり、下記の取り組みを担当した。</p> <p>(1) 体験者手記朗読 『漂流十二時間』(中三小森洋子) 朗読：諫早東高校 瓦田未来 『八人のいはいをだいて』(六年林 信行) 朗読：谷口ひとみ</p> <p>(2) 長崎地方气象台出前講座:当時の気象状況解説等</p> <p>(3) 体験者談：田河文乃</p> <p>(4) パネルディスカッション：中野会長がパネラー</p> <p>(5) 子ども壁新聞コンクール表彰支援</p> <p>(6) 本明川の歌『本明川に捧ぐ』斉唱：コールすみれ、葡萄の会、市立諫早中学校・県立諫早高校・私立鎮西学院高校合唱団、諫早混声合唱団</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>(1) 「本明川防災・減災フォーラム」開催の後援団体として今までの事業内容を部分的に取り入れてもらい、フォーラムの充実に貢献できた。</p> <p>(2) フォーラムには、1,200人以上の来場者があり、盛会であった。</p> <p>(3) 本明川を語る会の地道な活動が評価され、行政・関係団体・市民等に広く周知してもらう機会になった。あらためて継続することの重要性を再確認できた。</p> <p>(4) 最近の想定外の大災害発生を身近に感じ、フォーラムを通して日ごろの防災対策の必要性等防災・減災意識の高揚が図られた。</p>
6 参加内訳	総人数 1,270名
	(1) 主催者参加 70名
	(2) 日本人参加((1)を除く) 1,200名
	(3) 外国人参加((1)を除く) 0名
7 今後の方針	<p>(1) 来年度で10回目の「諫早大水害を語り継ぐ」を迎える。節目にふさわしい事業の構想を企画したい。</p> <p>(2) 行政・関係団体との連携を強め、各年代の参加等を創意工夫したい。</p>

体験手記朗読
諫早高東高校生 瓦田未来さん



体験手記朗読
谷口ひとみさん



体験者談
田河文乃さん



パネルディスカッション
パネラー 中野勝利会長



壁新聞コンクール
受賞した小中学生



斉唱「本明川に捧ぐ」
斉唱した6団体

